

おだか

第18号
2014
平成26年10月7日(木)

南相馬市
小高小学校
学校だより



発表会

10月11日(土)8時40分から

- 4年 音楽劇「こわれた千の楽器」
- 5年 群読他「力強く、エネルギーに!!」
- 6年 朗読劇「大悲山大蛇物語伝説」

〈主な演目〉

- 1・2年合同
音楽劇「真夜中のバースデーパーティ」
- 3年 落語劇「寿限無」

9月に入り、子どもたちは学習発表会に向けて、猛練習中です。台風一過、秋晴れのよい天気となりそうです。ぜひ、学校に足をお運び下さい。



鼓笛演奏にむけて練習中です

読書感想文コンクール入選作品紹介

第60回 相馬地方読書感想文コンクールにて、本校の5年

生、福田蓮くんの作品が入選しました。本を読んだ感想に自分の体験がよく反映されていて、とてもよい感想文です。以下にご紹介します。

「百グラムのいのち」を読んで
福田 蓮

生き物が好きなぼくにとって、表紙にかわいい動物がたくさんついていたこの本には、自然と興味をいだくことができた。

しかし、内容は、かわいい表紙とは対照的にずしっと重いものだった。ぼくは、読み進めていくうちに、捨てられたペットを救う活動が続いている動物あいご団体「ミグノン」の友森りょう子さんの活動を追いかけてながら、動物の命の尊さと人間と動物の関わりについて考えさせられた。

「あなたならどうする。」この言葉が、ぼくが、この本を読んで一番心に残ったところだ。捨てねこを見つけたときに、あなたならどうしますか。という質問が投げかけられたのだ。ぼくなり考えてみたが、ねこを見たら、動物好きのぼくは、家に連れて帰りたいという気持ちかわいてくるが、家族の反対にあい、納得してしまう気がする。でも、作者は、「手のひらにのってしまいうほど軽くて小

い命。でも、まちがいなく生きて
いる。その『重み』をあなたもい
つしよに感じてほしい。」とうっ
たえているのだ。ぼくは、どうし
たらいいのかなやんでしまった。

りよう子さんは、捨てられた動
物や行き場のない動物を保護す
る活動をしていて、東日本大しん
災になった後も変わらずに、その
活動を続けている。しん災後わず
か十日後に、すでに動物を助ける
ために被災地に入る決心をした
のだ。あのおそろしく、想像をは
るかにこえる被害が出た東日本
大しん災でも、りよう子さんの信
念がゆるがなかったことに、ぼく
は驚いた。

しん災前、ぼくの家では犬を飼
っていた。家族みんながかわいが
っていた、こげ茶色の「ハナ」だ。
しん災でどうすることもできな
くなり、愛ご団体の人に助けてい
ただいた。今も預かってもらって
いる。里親さんになってくださっ
た方は、とても優しく時々、「ハ
ナ」の写真を送ってくれたり、様
子を知らせてくれたりする。埼玉

県に避難している「ハナ」とは一
年に一回ほど合わせてもらって
いるが、遠いので行くまでに時間
がかかってしまい、少しの時間し
か合うことができないのは仕方
ないのだ。「ハナ」は、ぼく達を
見つけるととび上がって喜んで
くれる。ずっと離れていても、忘
れないでいてくれるんだと思
うと、よけいにかわいくて別れが
つらくなってしまふのが、今のぼ
くと「ハナ」の関係だ。

この本を通して、命の大切さや
命を守る難しさを改めて考えさ
せられた。命は、ぼく達人間もた
とえ百グラムの小さな生き物も、
同じ価値だ。そして、動物を飼う
ことは、家族が増えることでその
命に責任を持つことだ。今、ぼく
は犬の飼えない仮設住宅に住ん
でいるで、「ハナ」を預けてしま
っているという事実があり、いつ
も悪いと思っている。

でも、いつか家に帰ることがで
きたら「ハナ」をむかえに行き、
前のようにいっしよにくらして、
散歩する、そんな日を楽しみに待
ちたいと思う。

もう一つの図書館

2年生の教室入り口近くに、小さな本棚のコーナーがあります。

「まちなか文庫」とよばれ、藤子不二雄の「ドラえもん」や中沢啓治の「はだしのゲン」、横山光輝の「三国志」などの漫画やジブリ映画を本にしたもの、絵本など、低学年向きの読みやすい本が並んでいます。

この「まちなか文庫」は、特別教室に図書室ができる前から、子どもたちに娯楽を提供してく

れています。2学期始めには、ふれあい広場館長の島尾様やボランティアのみなさんによって、本が整理され、新しい本に入れ換えられました。

震災から3年半がすぎましたが、現在も、さまざまな方が、子どもたちのために学習環境を整えてくれています。小高小学校のもう一つの小さな図書館として、感謝の気持ちを持って活用させていただいています。



「まちなか文庫」のコーナー

